

取り組もう！ ボランティア活動

東日本大震災しんさいが起きた後は、多くの人々が通常つうじょうの生活をする事ができませんでした。しかし、被害ひがいが小さかった人々や、他県から多くの人々がボランティア活動に参加していました。

ボランティアの人々は自分の食べ物や道具、ねる場所などの生活の手だて等、全て自分たちで準備じゆんびをして被災地ひさいのボランティア活動に取り組みました。

1 ボランティアの人々の活躍かつやく



アルファ米のたき出しボランティア

自分たちも被災者であるにもかかわらず、たき出しきゆうえんぶつしや救援物資うんぱんの運搬こうれいしゃ、高齢者や病気の人々への食料の配達など、地域ちいきのボランティアとして参加している大人や小中学生がたくさんいました。

ボランティア活動の移り変わり

震災直後から1年後まで、のべ約126,000人が宮城県でボランティア活動を行いました。役に立ちたいという気持ちで、自分の仕事が休みの土曜、日曜、休日などに被災地に入り、震災がれきの処理しよりなどに取り組みました。

2015（平成27）年4月と5月には、約3,700人がボランティアをしました。活動内容は、被災者のコミュニケーション作りが中心になってきています。

復興ふっこうを目指して、ボランティアの必要な場面はまだあります。（ボランティアの数は、宮城県ボランティア協会による）

*仙台市災害ボランティアセンター

災害による被災者・被災地しえん支援を目的に、ボランティア活動を効果的・効率的に行うために設置される災害復興支援に特化したボランティアセンターです。仙台市が設置し、仙台市社会福祉協議会うんえいが運営します。



かき出した泥を集めるボランティア

2 私たちにできるボランティア活動

震災によって、電気・水道・ガスなどのライフラインが大きな被害を受けました。特に水が出ないため、飲料水、調理に使う水、トイレに流す水などに、とても困こまっていました。

お年寄りにとっては、給水車が来ても、重い水を自宅まで持って帰るのは大変なことでした。

その様子を見た児童の中には、トイレに流す水をプールからくんだり、お年寄りの自宅まで水を運んだりするという手伝いをする人もいました。



泉区松陵地区に加美町小野田地区からの給水支援

3 仙台を元気に～復興に向けて、私たちにもできること～

市内の小中学校では、児童・生徒合同会議を開き、挨拶運動あいさつやごみ拾いなど、復興に向けて自分たちのできることに取り組んでいます。地域の人といっしょに行き、地域とのつながりを深めている学校もあります。



学校周辺の清掃活動



地域の方も加わったあいさつ運動

? 考えよう

- 自分がこれまでお世話になったボランティア活動や知っているボランティア活動を思い出してみよう。
- 自分たちができるボランティア活動について話し合おう。